

# くわな IoT 推進ラボ協議会（グリーン IoT ラボ・桑名）分科会 議事録

<p>日時・場所</p>	<p>令和4年3月30日(水) 13:00～14:45 市役所5階 中会議室</p>
<p>出席者</p>	<p>(1) 出席会員 7名(7団体) うちオンライン会議出席 1名 NTN株式会社(自然エネルギー商品事業部) 技術部長 勝又 龍介 桑名商工会議所 総務課 係長 東岡 謙 桑名三重信用金庫 部長 益川 幸夫 中部電力パワーグリッド株式会社桑名営業所 契約サービス課課長 南 孝明 百五銀行 桑名支店長 杉本 和 丸紅株式会社 中部支社 支社長補佐 清水 香菜 丸紅新電力株式会社 販売強化・新規事業部 星谷 将人</p> <p>(2) アドバイザー 1名 三重大学 地域イノベーション学研究科 教授 西村 訓弘</p> <p>(3) 市出席者 総務部長 松岡 孝幸 事務局 7名</p>
<p>会議次第</p>	<p>1. 報告事項 ①これまでの取り組みについて</p> <p>2. 議題 ①令和4年度通常総会議案について 第1号議案 令和3年度事業報告及び決算報告について 第2号議案 役員改選について 第3号議案 令和4年度事業計画(案)及び予算(案)について ②これからの取り組みと課題について ③意見交換</p> <p>3. その他</p>
<p>概要 (主な意見)</p>	<p>1. 報告事項 ①これまでの取り組みについて 【資料1に基づき事務局より説明】 【質疑応答】 ・多度山グリーン好循環創出事業(自然エネルギーを活用した循環式トイレ)の期待感はどうか。</p>

本事業の自然エネルギーを活用した循環式トイレは令和4年3月30日に引渡しで、4月6日の山開きに併せてお披露目する予定である。この循環式トイレは100%再生可能エネルギーで運転させ、デジタルサイネージを備えている。そこで、地元商店で利用できるクーポンを発行し、経済の好循環にもつなげていく。最初にある程度水は必要であるが、その後は使用を続けていくことで水が循環していくしくみとなっている。他の自治体にも展開して欲しい画期的な取り組みである。

- ・ふるさとC o - L e a dプログラムについて、3社に対して提案あったが、その後の企業の反応はどうか。

桑名市役所の商工課にも協力していただきつつ、セミナー会議を開催した結果、多くの企業に参加していただいていたが、敷居が高いと感じている企業も少なくなかったように思う。企業の利益だけを考えるのではなく、DXの発展につながるよう、継続的に続けていきたい。

市内の企業の従業員で、今年度、修士課程を修了された方がいる。この企業では、機器の部品交換を稼働上限の回数を決めて行っていた。その交換方法が最も効率が高く、当たり前だと思っていたが、まだ使えることが判明したため交換のタイミングを見直した結果、さらなる効率化を図ることができた。地域の中小企業においても、省エネ、効率化を図れることがわかったということ修士論文にまとめた方が市内企業にこの場で紹介させていただく。

気づきがイノベーションを呼ぶ、このふるさとC o - L e a dプログラムも、その良い機会となればと思う。

- ・桑名市も「みえグリーンボンド」に投資した。今後、このような取り組みは増加していくと思われるが、金融機関としてどのように考えているか。

弊社としても、みえグリーンボンドに投資したところである。また、令和3年11月にグリーン預金を募集した結果、3日で30億円が完売した。脱炭素に向けた取り組みは、より一層増えていくと考えられ、このような商品はますます需要があると見込んでいる。投資希望者が多く、融資も連動的に増やしていきたい。また、大企業は下請け企業に脱炭素達成目標を掲げ、成果を求めている。脱炭素社会に向けて、具体的にどういう取り組みをすれば良いという問い合わせも多い。当行のノウハウを伝えて対応していきたい。

## 2. 議題

### ①令和4年度通常総会議案について

#### 第1号議案 令和3年度事業報告及び決算報告について

事務局から説明を行い、その後、その承認を求めたところ、満場異議なく承認可決した。

#### 第2号議案 役員改選について

事務局から説明を行い、その後、その承認を求めたところ、満場異議なく承認可決した。

#### 第3号議案 令和4年度事業計画（案）及び予算（案）について

事務局から説明を行い、その後、その承認を求めたところ、満場異議なく承認可決した。

### ②これからの取り組みと課題について

## 非公開にて審議

### ②意見交換

- ・ 厳しい世界情勢において、積み残してきたことをリセット（再調整）する時期であると考えている。日本において、電力の自立は難しい。使用量削減、省エネ、自ら生み出すことがまず大切である。

日本は欧米の考え方や形式を取り入れつつ、現場力で国家を築いてきたが、人が不足するなど、持続化することが難しい状況である。二酸化炭素の削減に置き換えた場合、中小企業は根本的に経営を見直さなければならない。その場しのぎの経営ではなく、効率化を重視すればスリム化できるはずである。中小企業も変革期の中で、自分たちはどうすればよいか考えなければならない。

二酸化炭素の排出量削減は数値で見えないと意味がない。太陽光発電設備等共同購入事業をゲーム感覚で楽しめるような取り組みにはどうか。例えば、導入することで、省エネ順位が何位になるなどといったように、企業も個人も競争意識をもって楽しんで取り組むと良いと考える。

- ・ どのような形で何を目指すかが課題だ。国、地域に及ぼす影響は日々変化していると思うが、どのように考えているか。

現状の世界状況は不確定で見えない部分が多い。非常に厳しい状況が続いているが、脱炭素の流れはぶれないように進めていきたい。

厳しい現状が意識の改変につながっているとも思う。良いきっかけとして捉えて進んでいけたらと思っている。

- ・ 中小企業の脱炭素に向けた取り組みについて、紹介していただけるものあれば聞かせて欲しい。

令和3年度は持続可能な経営を目指すために商工会議所において桑名市中小企業競争力強化補助金を活用し、生産性の向上を図った企業がある。その結果、事業計画を見直し、今後の道筋を立てることができた。

また、ある企業は桑名市最先端設備導入支援補助金を活用して、利益を上げるために大型機械を入れ替えた。何十年も同じ機械を使用している中小企業は多い。設備投資のコストをかけることで見直しにつなげることも必要であると感じた。

経済支援の施策は大切であると思うため、桑名市としても協力して進めていきたい。

- ・ 今後のステップアップについて、どう考えているか。

再生可能エネルギーを活用したものを用意していきたい。弊社の商品は、省エネに貢献できるものを生み出すことを目的としている。特定の機械だけではなく、動力源に必ず必要となる部品を生み出していきたい。

2050年は、ずいぶん先の未来の話のようだが、小中学校への環境教育当方等次世代に向けて実施していきたい。弊社の資材を利用して実施できればと考えている。

SDGs、脱炭素については、子どもたちの意識の高まり感じられてきている。次世代を担う人材である子どもたちに向けて、どうあるべきか伝えていくことが求められていると思う。皆さんの協力をいただきながら進めていきたい。

3. その他（事務局より）

- ・グリーンIoTラボ・桑名の通常総会を令和4年5月13日に開催予定と案内した。
- ・次回の分科会の開催は、7月頃を予定していると案内した。

以 上